組合員として知っておきたいJAの基本



食と農を取り巻く5つのリスク



第1のリスクは、食料自給率が長期にわたり低迷していることです。政府が定めた食料自給率（カロリーベース）の目標値は2030（令和12）年で45%となっていますが、2024（令和6）年度は38%※1にとどまりました。先進国の中でも極めて低い水準となっており、国内で消費する食料の約6割は輸入に頼っている状況です。



第2のリスクは、農業生産基盤の弱体化が深刻になっていることです。農業を仕事とする農業従事者の減少にくわえて、その高齢化も大きな問題です。2024（令和6）年時点で基幹的農業従事者の約7割が65歳以上※2です。また、農地面積も最大であった1961（昭和36）年からの65年あまりで約3割減少しました。※3



第3のリスクは、自然災害の頻発です。国内ではその回数・被害額ともに増加しています。日本に限らず、世界各地でも、今までにない大洪水、干ばつ、山火事、台風、熱波、暴風などが多発しています。



第4のリスクは、世界的な人口増加です。世界の人口は約82億人であり、今後さらに増え続けることが予測されています。このまま増加すると、食料不足が進行することが懸念されます。



第5のリスクは、ウクライナ情勢・中東情勢などの世界情勢の緊迫化や急激な円安などによる肥料や家畜のエサ、燃料等の高騰・高止まりです。生産現場はかつてない危機的な状況に直面し、このままでは持続可能な食料生産ができない状況になりつつあります。

※1 農林水産省「食料需給表」　※2 農林水産省「農業構造動態調査」 ※3 農林水産省「耕地及び作付面積統計」

「国消国産」をすすめると

「国消国産」のために私たちが普段からできることは、「国産を選んで食べる」ことです。新鮮で安全・安心な国産農畜産物を食べることは、日本の農業を応援することになります。また、食料自給率の向上や、輸入による二酸化炭素の排出を抑えることにもつながります。「国消国産」は、「食」と「農」の未来を守る合言葉なのです。

JAグループサイトの中で「国消国産」に関する情報などをご紹介しています（https://agri.ja-group.jp/foodsecurity）。



出典:JAファクトブック2026